

おはなしレストランライブラリーの取組

— 読み聞かせ活動を通じた地域との交流拠点として —

岩田英作

1. はじめに—ライブラリー設置の経緯—

おはなしレストランライブラリーは、平成22年4月にオープンした絵本専門の図書館である。公立大学法人島根県立大学短期大学部松江キャンパス内に附属図書館とは別に設置し、平成23年4月からは一般開放も行き、学生のみならず多くの市民の利用がある。



松江キャンパスでは、学生の総合的な人間力の育成を目標に掲げ、平成18年度より絵本の読み聞かせを取り入れた教育を行っている。この取組を総称して「おはなしレストラン」と呼んでいる。おはなしレストランの取組は、平成21年度に文部科学省から大学教育推進プログラム（Good Practice）に選定され、それを契機に大幅に取組を拡充することができた。おはなしレストランライブラリーの設置も、それに伴うも

のである。

日本国内の大学に附属する、児童図書を専門とする図書館もしくは図書室は、筆者の調べたところでは、本学のライブラリーを含め以下の7館がある。⁽¹⁾

大学附属の児童書専門図書館（国内）

1. 北海道武蔵女子短期大学児童図書室 1976～
2. 京都造形芸術大学子ども図書館「ピッコリー」1978～
3. 鳴門教育大学附属図書館児童図書室 1987～
4. 山梨大学附属図書館子ども図書室 2002～
5. 大分大学児童図書室 2002頃～
6. 島根県立大学松江キャンパス絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」2010～
7. 関西大学児童図書館（高槻市と共同経営）2010～

2. おはなしレストランライブラリーの活動

おはなしレストランライブラリーの活動内容は、以下の通り「通常の図書館業務」「読み聞かせ教育に関わる活動」「その他の活動」の3つに大別することができる。以下、この順に従って、ライブラリーの活動内容を見ていく。

1) 通常の図書館業務

【利用案内】

おはなしレストランライブラリーの利用については、次の通りである。

●開館時間

水～金曜日 午前10時～午後6時

土・日曜日 午前10時～午後5時

●休館日

月・火曜日、祝日、年末年始、その他

●貸出

貸出冊数は1人5冊まで、貸出期限は2週間

●その他

- ・貸出カード作成は住所の分かるものを提示していただければどなたでもOK。
- ・未就学の子どもは保護者同伴であること。
- ・館内での飲食、携帯の通話利用は不可。

【司書】

おはなしレストランライブラリーでは、専任の司書2名（いずれも女性）が図書館業務にあたっている。ライブラリーの新設に伴って新規に雇用した2名で、いずれも司書資格を有するが図書館での勤務はおはなしレストランライブラリーが初めてである。

司書の2名が日頃特に留意しているのは次の3点である。

●快適で安全なライブラリー

おはなしレストランライブラリーの特徴の一つは、親子連れの利用者が多いことである。来

館する子どもは、未就学の子どもが圧倒的に多い。清潔で快適な環境づくりはもちろんのこと、小さい子どもが怪我をしたりしないように角張ったものはできるだけ避け、子どもから目を離さないように注意している。

●ゆるやかな躰、ゆるやかな静けさ

小さい子どもの利用が多いこのライブラリーでは、「正しい姿勢で本を読みましょう」「図書館は静かに利用しましょう」というようなことを、過度に求めたり言ったりしないようにしている。おはなしレストランライブラリーは書架もテーブルも床もすべて木でできていて、土足は禁止しており、子どもたちは床に寝そべて絵本を読むことができる。お母さんと一緒に本を広げながら、おかしな場面では自然に声を出して笑ってあげればよい。しかし、時には学生が子ども顔負けに騒いでいることがあるので、そのあたりを司書はうまく指導するようにしている。

●名前を呼んで声かけ

そもそも絵本の読み聞かせを教育に取り入れたのは、学生のコミュニケーション力を培い、挨拶やお辞儀などの基本マナーを身につけるためである。ならば司書もそれを実践しようということで、来館者の出入り際には必ず挨拶をするようにしている。特にリピーターの子どものには名前を呼んで声掛けをし、親しみやすい雰囲気づくりに努めている。司書が記憶している子どもの名前は、一般開放から1年半たった平成24年9月時点で約280名を数える。理想は、その子どもひとりひとりの名前だけでなく読書傾向を把握することである。

【蔵書】

現在の蔵書は約7000冊(平成24年9月現在)で、内訳は以下の通りである。

・絵本	4440 冊
・大型絵本	122 冊
・紙芝居	164 冊
・よみもの	1292 冊
・詩	170 冊
・参考図書	131 冊
・その他（図鑑など）	703 冊
合計	7022 冊

長く読み継がれている本、定評のある本を中心に取り揃え、当面開架1万冊を目標にしている。しかし、現在は複本を準備するゆとりがほとんどなく、人気のある絵本の貸し出しがままならないなどの問題が生じている。

絵本の配架は、「あかちゃんえほん」「ちいさいえほん、いわなみこどもえほん」「ことば・ちしきえほん」「むかしばなし」「にほんのえほん」「せかいのえほん」の6つに分類して行っている。

「ちいさいえほん、いわなみこどもえほん」は、絵本が小さく他の絵本といっしょにしにくいというもっぱら物理的な理由で分類した。

「むかしばなし」の棚には、絵本と合わせてグリムやアンデルセンの読み物も置き、むかしばなし全般を一括で手に取りやすくしている。

「にほんのえほん」「せかいのえほん」は、絵本画家名の50音順に並べ、画家ごとに仕切りをして配架している。ただし、宮沢賢治と新美南吉の絵本は例外的に単独で置いている。

絵本は、表紙が見えるのと見えないのとでは与えるインパクトが大きく異なる。そのため、おはなしレストランライブラリーでは、絵本の表紙が見えるようにディスプレイできる専用書架台を用意した(1ページ目掲載の写真を参照)。しかし、すべての絵本の表紙が見えるように配架することはスペースの都合上無理である。ど

の絵本を表紙が見えるように置くかについては、季節に合った絵本、新しく入った絵本などを中心に選んでいる。

そのほか、絵本を見開きで展示するための書見台を用意し、月ごとの特別展示に利用している。



◆書見台を利用して、6月の「雨」をテーマにした絵本を展示

これまでおはなしレストランライブラリーで行った特別展示のテーマは次の表の通りである。

●特別展示のテーマ一覧

2010年8月	海
9月・10月	食べ物
11月	ふしぎなおはなし
12月	クリスマス
2011年1月	雪
2月	おに
3月	春
4月	花
5月	おでかけ
6月	雨
7月	おばけ
8月	恐竜
9月	月
10月・11月	谷川俊太郎
12月	クリスマス
2012年1月	お正月・竜

2月	お菓子
3月	春
4月	幼稚園・小学校
5月	おでかけ
	母の日
6月	雨
	父の日
7月	夜
	長く読み継がれている本
8月	季節展示なし
9月	グリム童話

【利用状況】

平成23年度の月平均入館者数は1280名で、そのうち3分の2が一般利用者である。学生の利用は平日が多く、一般の利用は土・日が圧倒的に多い。月平均貸出冊数は2240冊で、常時1400冊が貸出し中となっている。

【一般利用者アンケート】

おはなしレストランライブラリーでは、以下の要領でアンケート調査を実施した。

目的：おはなしレストランライブラリーを一般に開放した初年度を終えるにあたって、一般利用者のライブラリーに対する声を聞き、今後のライブラリーづくりに役立てるため。

対象：おはなしレストランライブラリー一般利用者

実施期間：平成24年1月4日～1月31日

回収部数：65部

回収部数は多くなかったが、一般利用者の貴重な意見を聞くことができた。ここではアンケート結果の要点を簡潔に述べることにする。

自由記述の中で特に目立っていたのが、「毎回来るたびに話しかけてもらって、子どもも司書のお姉さんが大好きで来るのを楽しみにしてい

ます」「『本の充実』『雰囲気』ももちろんですが、『司書の対応』はこのライブラリーの一番の魅力です！来やすい雰囲気にさせていただいて、本当に感謝しています」など、司書の対応についての好意的な意見だった。

「司書さんやお姉さん達が子どもや親にも声をかけてくれ、他の図書館にない雰囲気で、とても利用しやすいです」のように、司書だけでなく学生からの声かけについての意見もあった。実際、おはなしレストランライブラリーでは、学生と地域の方がいっしょに話をしている光景を目にすることがしばしばある。親が本を探しているあいだ、学生がその子どもに絵本を読んでいるということもある。先日には、男子学生のひとりが赤ちゃんの横でいっしょにハイハイして楽しんでいたら司書から聞いて、思わず笑ってしまった。これは、司書や教員が学生に対してできるだけ地域の方に声をかけるように指導した結果ではない。学生と地域の方とのあいだで自然とできあがった交流である。今、大学の役割として地域とのつながりが強く求められている。おはなしレストランライブラリーに見られる学生と地域の方とのつながりは、誰かから求められてきたつながりではなく、自然とできたつながりである。それは尊く、よりつよいつながりだと思う。

しかし、アンケートには次のような意見もあった。「利用されていた学生さんの雑談で意見が聞こえた時に気になるような話をされていたことがあったので、気をつけられた方がいいと思います」というものである。司書に確認したところ、学生の雑談に対する苦情は、ごくわずかだが実際に届いている。学生の話の内容は恋愛や地域での実習活動のことで、プライベートな人間関係をあたりをはばからずに、しかも子ども

ものいるところで話していたことに注意を受けた。まったく私語をしてはならぬとは、おはなしレストランライブラリーでは考えていないが、声の大きさやその内容について注意するように学生には指導していきたい。

2) 読み聞かせ教育に関わる活動⁽²⁾

【概要】

おはなしレストランライブラリーの活動において、最も大きな特徴は、言うまでもなくライブラリーが本学の読み聞かせの教育と緊密に連携している点にある。一般的に日本の高等教育機関の図書館は教育との連携が弱いとされるが、その中であって読み聞かせを通じた教育を達成するために生まれたおはなしレストランライブラリーは、いささか異色な存在と言ってよいかも知れない。⁽³⁾

おはなしレストランの目標は、絵本の読み聞かせを通して、学生の総合的な人間力を育成することにある。ここでいう「総合的な人間力」とは、「知識（絵本や人間に関する知識と理解の育成）」「技能（Face to Face のコミュニケーションスキルの育成）」「実践（実践を通じた社会性・倫理観の育成）」を総合して育まれる能力のことを言う。

この人間力育成に向けて、おはなしレストランライブラリーでは、読み聞かせで使用する絵本の貸し出しを行うだけでなく、読み聞かせの準備や実践などを行っている。

さて、おはなしレストランの取組で行っている定期的な読み聞かせ活動は、次の4つである。

毎週月曜日 松江市立幼保園のぎでの実践

水曜日 松江市立乃木小学校での実践

金曜日 松江市立忌部小学校での実践

日曜日 おはなしのじかん

このほか、不定期の取組として、学外の保育所や図書館などからの要望を受けて読み聞かせに出かける「出前シェフ」がある。

おはなしレストランライブラリーは、これらの取組すべての拠点として機能している。平成23年度の実績では、計106名の学生が約820冊の絵本の読み聞かせを行った。本学の学生の総数は約500名なので、5人に1人が読み聞かせに参加したことになる。

【おはなしレストラン10か条】

おはなしレストランの活動をする上で重要な事柄をわかりやすくまとめたのが、下の表にある「おはなしレストラン10か条」である。読み聞かせの実践をする前に学生にこの10か条を示し、実践後も10か条に従って各自自分の取組を点検する。おはなしレストランは、10か条に始まり10か条に終わると言っても過言ではない。

おはなしレストラン10か条

1. 絵本よ、きょうもありがとう
 2. 絵から文へ、文から絵へ
 3. 自分の心で、子どもの心で
 4. 聞き手にあった本選び
 5. 季節にあった本選び
 6. 絵本の持ち方、たいせつに
 7. 絵本の読み方、たいせつに
 8. チームワークも味のうち
 9. あいさつ身なりも味のうち
 10. みなさん、きょうもありがとう
- ※各条項の下位項目は省略した。

「1. 絵本よ、きょうもありがとう（活動資源である絵本を大切に扱う）」から、「10. みな

さん、きょうもありがとう（実践に協力していただいた方への感謝を忘れない）まで、絵本に向かう姿勢、読み聞かせの仕方、チームワークやマナーなどについてまとめてある中で、ここでは特に、「2. 絵から文へ、文から絵へ」「3. 自分の心で、子どもの心で」について、考え方を述べておきたい。

絵本は一般的に「絵」と「文」から成り立っている。映画が「映像」と「音声」で成り立っているように、絵本もその意味では総合芸術と呼んでもよい。絵本は「絵」と「文」の両方を、できれば読み聞かせを通して「目」と「耳」でじっくり味わいたい。しかし、不幸なことに、絵本は映画ほどには総合的な価値を見出されてはこなかった。むしろ、絵本における「絵」は「文」をあくまで補完する従属的なものとして認識されてきた。すなわち、絵本とは、「文」がまだしっかり読めない子どもが「絵」で補いながら物語を理解するためのものだとする絵本観である。今日では絵本における「絵」の重要性も認識されてきているように思えるが、しかし日頃の読み聞かせを通して直面するのは、昔ながらの「文」優位の考え方の根強さである。たとえばこんなことがあった。学校で読み聞かせをする時には、できるだけ子どもたちには絵本の近くに集まって聞いてもらう。ところがクラスによっては、いつもの席に着いたままで子どもたちがいることもある。ある時、先生にそのことを申し上げたところ、「高学年は席についたままでいいんです。絵は見えなくても話さえ聞こえれば」と答えがえってきた。もうひとつ、これは小学校で読み聞かせのボランティアをされている方から届いた質問である。絵本からおはなしに、何年生の段階で切り替えていけばよいのかという質問だった。筆者は「6年生まで

ずっと絵本でいいです」と答えた。絵本は文章が読めるようになったらさよならするものだという認識。なんともったいないことか。絵本とのつきあいは、読み物を楽しむようになってからも並行して続けていけばよいし、ひいてはそのことが絵本のよさ、読み物のよさを、相互により深く理解することにもつながるのではないだろうか。

もうひとつ、「自分の心」と「子どもの心」ということについて。読み聞かせの授業を受講する学生は総合文化学科の学生と保育学科の学生である。⁽⁴⁾ この2学科の学生の絵本に対する向き合い方が微妙に異なっていて興味深い。読み聞かせで使用する絵本を選ぶ際に、文学科を前身とする総合文化学科の学生は絵本を読んで笑ったり「これおもしろい」とか言ったりして、自分で絵本を楽しむ学生が多い。ところが、保育学科の学生は、自分で絵本を楽しむというよりも、読み聞かせの対象である子どもにとってその絵本が面白いかどうかを気にする学生が多いようである。中には絵本の表紙だけを見て、「これ、〇年生にどうでしょうか」と聞いてくる学生もいる。そのような学生に対しては、まずは自分で読んでみようよと声をかける。

保育の学生に限らず、教育に携わろうとする者は、まずは子どものことを第一に考えるべきであるというのが一般的な考え方も知れない。しかし、絵本の読み聞かせをする際に、「自分の心」を棚上げにして「子どもの心」だけを念頭に置くのはどうかと思う。素朴に考えて、「自分の心」で絵本をよく味わうことをしないで、「子どもの心」に訴えかける読み聞かせができるものだろうか。20歳なら20歳の「自分の心」で、40歳なら40歳の「自分の心」で絵本を感じて、それから「子どもの心」に語りかければよいと

思う。

【共通基礎科目「読み聞かせの実践」】

定期的な読み聞かせ活動のうち、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校での実践については、おはなしレストランライブラリーを教室として利用している。松江キャンパスの3学科（健康栄養、保育、総合文化）の1年生が、共通基礎科目「読み聞かせの実践A」（前期）「読み聞かせの実践B」（後期）として取り組む授業である。月曜日の9：00～12：10の2コマ、ライブラリーで絵本の選定や読み聞かせの練習を行い、幼保園のぎへはその時間内に、乃木小学校へは水曜日の朝に実践に出かける。履修する学生数は半期で20～40名程度。スタッフは5名（教員3名、司書2名）で対応している。



松江市立幼保園のぎでの実践風景

「読み聞かせの実践」の授業の雰囲気はどのようなものか。スタッフのひとり、岡本千佳子非常勤講師が書いた、「たかが読み聞かせ、されど⁽⁵⁾」と題する文章には、授業中の学生の様子、スタッフの対し方が実によく表されているので、次に引用する。

「学生たちが実践を終えて帰ってきた時の表情が好きだ。満足そうな顔も、思い通りにいかず悔しそうな顔も。みんな次につながるいい表情をしている。「読み聞かせの実践」の非常勤講

師を始めて2年になる。初めは、良い絵本とは、読み聞かせとは、それを学生たちに伝えていくには、と考えていたが、授業を続ける中で、本当に大切にしたいことが形になってきた。授業はいたってシンプルだ。ガイダンスや読み聞かせの基本の講義のあとは、学生たちの選書・実践前後の指導、その繰り返しだ。

ある日の実践にAさんが選んだのは、七夕の昔話。季節も対象年齢もぴったりのよい本だ。模擬実践を聴く。声の出し方。表現力、間の取り方もいい。しかし聞いていてどうしても違和感がぬぐえない。読み終えて彼女が聞いた。「長い……ですよ。」手元のストップウォッチは9分と少し。実践時間の10分を考えると長くはない。しかし、長く感じた。「どうしてこの本を選んだの?」「七夕の季節だし、何冊か読んでこれがいかなって……。」「あのね、あなたのすごく好きな本ってない?」「あるんですけど……」彼女が出したのは死んだ祖父と孫の交流の話だ。いい本だが、小学校の朝の読み聞かせに死の本は歓迎されない。それにこの本では10分を超えるだろう。迷いながら一度読んでもらう。思わず引き込まれた。あっという間に感じたその読み聞かせは12分を超えていたが、彼女と話し、実践先での注意点を伝え、その本での実践とした。実践ではクラス中が一つになり、最後は深い感嘆の溜息で終わったという。「この本を読んでよかった。この本を読めてよかった。」彼女はそう言って、満足そうに笑った。

この授業をとる学生は、人前に出るのが苦手、という学生も多い。そんな彼らを実践先の子供たちが助けてくれる。学生数人の前で模擬実践ですら涙ぐみ過呼吸をおこすBさんは、実践に不安を抱える一人だった。実践当日、教室ま

で付き添い「何かあったらすぐフォローするから。」と送り出した。消え入りそうな声で自己紹介をし、絵本『ながぐつをはいたねこ』を出した途端、子供たちが歓声を上げた。「あ、それ知ってる。」「かしこい猫のはなしだよね。」「わー面白そう。」ガチガチになっていた彼女の肩がストンと落ちた。背筋がすっと伸びた。もう大丈夫。彼女は用意された椅子に座ると、繰り返した練習通りの声で本を読み始めた。

本を声に出して誰かに読む。これが読み聞かせだ。ただそれだけのことが、なぜこんなに楽しかったり、しんどかったり、わくわくするのだろう。たかが読み聞かせ。されどーこの先はそれぞれ違う。各々違うたくさん「されど」の先を見つける手伝いに、私は今日もおはなしレストランライブラリーに向かう。≫

「読み聞かせの実践」で行う学生1人あたりの実践回数は、幼保園4回、小学校4回の計8回程度である。その都度準備と反省をノートに取りながら繰り返し、「おはなしレストラン10か条」に従って総括する。

幸い、この授業を途中で投げ出した学生はこれまで一人もいない。そして、多くの学生が達成感を持って授業を終えることができています。授業のしめくくりの学生の感想を聞いたり読んだりしてつくづく思うことは、筆者が担当している他の科目と比較しても、「読み聞かせの実践」は学生みずからが自分の変化を実感しやすい科目であるということである。

平成23年度、24年度の履修者の感想から一部を引用すると、「私は読み聞かせがしたかったから、とかではなくただ楽しそうという単純な理由でこの授業を受講しましたが、本当に読み聞かせも子どもも大好きになりました。」(A・T)、「人前で話すのが苦手なので最初の方は緊張し

たり、元気にできなかつたりしたけど、回数を重ねるごとにできるようになってきました。」

(A・N)、「実践に向けて、毎回2人で意見を出し合ったり、お互いを評価しあうことができて、実践を重ねるごとに、お互いの成長を感じることができました。」(H・O)など、いずれも自己の成長に気付いた喜びが感じられる。

おはなしレストランライブラリーは、単なる絵本の図書館ではない。それは、絵本の読み聞かせを通して学生が新しい自分に出会うための場でもある。

【おはなしのじかん】



おはなしレストランライブラリーで毎週 日曜日に行われる「おはなしのじかん」

おはなしレストランライブラリーを読み聞かせの準備ではなく実践場所として取り組んでいる活動が、この「おはなしのじかん」である。平成23年4月より、毎週日曜日11時からの30分間、おはなしレストランライブラリーで開催している。学生2人がペアになって来館した子ども向けに絵本の読み聞かせや歌、クイズなどを行うもので、平成23年度は、総合文化学科おはなしゼミの2年生10名が交代で計38回の「おはなしのじかん」を行った。始めた当初は来場者が数名ということもあったが、現在では「おはなしのじかん」を楽しみにしている人も増え、

常時 20～30 人の親子連れで賑わう。ホームグラウンドでの実践とあって、学生も比較的にリラックスして、子どもたちと絵本を楽しんでいるようである。

3) その他の活動

【学生図書委員会の活動】

松江キャンパスの学生図書委員会は、平成 22 年度に発足した比較的新しい組織である。委員にはなりたい人がなるというもので、人数も限定しない。雰囲気としては委員会というよりはサークルに近く、士気が高く自主性に富んでいる。同委員会は、おはなしレストランライブラリーにおいても平成 23 年度より活動を開始した。活動内容は以下の 3 点で、いずれもライブラリーの活性化に大いに役立った。

①読書マラソン

松江キャンパスの学生を対象とした企画で、キャンパス附属図書館、おはなしレストランライブラリーの本を読んでポップを書いてもらうというもの。優秀者には商品を用意し、ハイレベルなポップが 80 点集まった。

②おはなしマラソン

趣旨は読書マラソンと同じで、ただし対象を学外の一般向けとした。ポップを 1 つ書くごとにスタンプを押し、スタンプが 10 個集まると学生委員手作りのメダルがもらえるという企画で、子どもの参加を促し、155 枚のポップが集まった。

③図書館クイズ

おはなしマラソンと同様に学外向けの企画で、おはなしレストランライブラリーにある本を用いてクイズを出し、優秀者には認定書と葉を贈呈するというもの。アイデアはよかったが、開催期間が年末年始の 2 週間で、参加者は 18

名にとどまった。

【東日本大震災の支援活動】

おはなしレストランは、「西日本から被災地の子どもたちへ本を届けようネットワーク」(代表大阪樟蔭女子大学 神村朋佳講師)に加わり、平成 23 年 4 月よりおはなしレストランライブラリーを拠点として、絵本の収集と被災地への発送を行なった。学生、教職員、そして一般の方々の協力を得て、半年のあいだに 4000 冊を超える本を被災地の子どもたちに届けることができた。

平成 23 年 6 月 18 日、19 日の 2 日間、筆者は宮城県石巻市を訪れ、NPO 石巻こども避難所クラブ「にじいろクレヨン」(代表柴田滋紀様)に同行して 9 か所の避難所を回り、子どもたちに収集した絵本 200 冊を贈るとともに、絵本の読み聞かせを実践した。

平成 24 年 7 月、おはなしレストランライブラリーは、陸前高田市図書館「夢プロジェクト」の支援活動を開始した。「夢プロジェクト」とは、津波によって破壊された陸前高田市図書館を再建するため、古書を買取業者に送り、その買取金額を図書館再建の基金に充てるというもの。おはなしレストランライブラリーは、古書収集の一拠点として手を挙げ、多くの方の協力によって 7 月～10 月の 4 ヶ月で 6718 冊を収集、発送した。この取組には、花形泰道様はじめ松江市役所有志のご協力をいただき、古書回収ボックスを松江市役所、松江市立図書館に設置していただいた。

平成 24 年 9 月 20 日、筆者は陸前高田市を訪問し、久保田崇副市長におはなしレストランライブラリーの支援活動について報告を行なった。次いで陸前高田市図書館副主幹の長谷川敬子様案内で、壊れた図書館ほかを見学した。骨格

を残してぼろぼろになった図書館の中で、ひときわ印象に残ったのが、読み聞かせをする「おはなしのへや」の跡である。コンクリートが剥き出しになった灰色の世界で、「おはなしのへや」のカーペットだけが赤く残っていた。「ここで子どもたちに絵本を読んでいたんですよ」、長谷川様は声を詰まらせながらそう説明された。

久保田副市長によると、陸前高田市の新図書館は5年後の建設を目標にしているとのことだった。おはなしレストランライブラリーでの「夢プロジェクト」支援活動は、当面平成24年末まで続け、その後については古本の回収状況を見て決める予定である。



赤いカーペットだけが残った「おはなしの部屋」

【読みメン道場】

おはなしレストランは、平成24年度より、「島根県子ども読書活動推進会議」（島根県教育庁社会教育課所管）と協力して、「読みメン道場」を始めたところである。絵本の読み聞かせを通して、父親も自然なかたちで、しかも楽しく子育てをするための取組である。

取組で工夫した点は2つある。まずひとつは、お父さんが読み聞かせをする際のポイントを、右の通り「読みメン3か条」としてわかりやすくまとめたことである。もうひとつは、自身の読み聞かせの記録をとってもらい、将来子ども

へのプレゼントにしてもらいたいとの思いから、「読みメン手帳」を作成したことである。

第1回の「読みメン道場」は、平成24年8月に大田市で開催し、お父さんはじめ多くの親子連れに、「読みメン3か条」に従ってお話をし、「読みメン手帳」を配布した。まだ緒に付いたばかりの取組だが、いずれはおはなしレストランライブラリーで道場を開きたい。

読みメン3か条

一、「読みメン」は「育メン」の第一歩

子育てってどうしたらいいのだろう？ そう思ったら、まずは絵本の読み聞かせをしてください。そこには子どもとのふれあいが自然に生まれます。読み聞かせのいちばんのコツは、自分自身が楽しむこと！ むずかしいことは何也没有ません。自分の気に入った絵本を好きなように声に出して読めば、それで立派な読み聞かせです。

一、「読みメン」で家庭円満

お父さんが子どもに絵本を読むと、喜ぶのは子どもだけではなくありません。お母さんにとっても、お父さんが子どもに向き合う姿は大きな癒しになるのです。お父さんの読み聞かせで、家族みんなが笑顔です。

一、「読みメン手帳」は子どもへのプレゼント

「読みメン手帳」に絵本を読んだ日付と絵本の題名、できれば子どもの反応もひとこと添えて記録をとっておくことをおすすめします。子どもがやがて大きくなったとき、記録を綴った「読みメン手帳」を子どもにプレゼントしてはいかがでしょうか。お金ではけっして買えない最高のプレゼントになると思います。

3. おわりにー絵本のカー

松江キャンパスで絵本の読み聞かせを教育に取り入れて7年になる。学生が子どもに絵本を読んでいる姿に接しながら、また筆者自身読み聞かせを実践しながら、絵本についてつくづく思うことが2つある。

ひとつは、絵本が実におもしろいという、とても単純なことだ。しかも、子どもにとってはもちろん、大人になってからでも絵本は十分に楽しむことができる。赤ちゃん向けの代表的な絵本に『いない いない ばあ』(文 松谷みよ子、絵 瀬川康男)がある。これを学生に読んだ時の反応が面白い。最初は関心のなさそうな顔をしている学生も、笑みが自然とこぼれるようになり、「ばあ」のところでは、絵本に出てくる動物のような表情になるから不思議である。

「正直、今回の講演の内容を知らずに参加したのですが、初めは『絵本なんてこの年で楽しめないなあ』と思っていたのですが、先生が持って来られた絵本は、今まで読んだことのない絵本で、顔が緩んで笑ったりすることができ、『私はまだ絵本で笑顔になれるんだなあ』と嬉しい事実を知ることができました。」と、筆者の話聞いて感想を書いてくれたのは、島根県内の商業高校の生徒である。⁽⁶⁾

おはなしレストランでは、大学生にも絵本に親しんでほしいとの思いから、「大学生におすすめの絵本30冊」(次ページ掲載)を選定した。もちろん読んでほしい絵本はほかにもたくさんあるが、絵本に関心を寄せるきっかけになればという考えで選んだバラエティーに富んだ30冊である。参考にしていただければ幸いである。

その中の1冊を紹介する。『パンやのくまさん』(フィービとセルビ・ウォージントン作 まさきりこ訳)は、一般に幼児向けの絵本とされ

ているが、大学生はおろか、この50歳間近の筆者の心にもグッとくる1冊である。この絵本の中で物語らしい物語はなにも起こらない。パン屋のくまさんの、起床から就寝までの何の変哲もない日常が細かく描写される。このくまさんは、昨日までもこのように暮らしてきたらうし、これから先もきつと同じように日々を重ねていこうと思わせる。東日本大震災の後にこの絵本を読んだこともあって、なんでもない日常の尊さがしみじみと伝わってきた。

さてもうひとつ、絵本について強く思うこと。それは、絵本がコミュニケーションのツールとして、きわめてすぐれた特質を備えているということだ。子どもたちが目を輝かせて読み聞かせに夢中になっている姿は、読み聞かせをしている学生にとってこの上ない喜びとなる。そこに、多くの学生は、「やりがい」を見出し、「自信」を深める。たった1冊の絵本が、これだけのことを演出してくれるのである。特別な知識も技量も要らない。比較的簡便に、それでいて深く、人と人をつないでくれるもの、それが絵本であり、読み聞かせである。

「おはなしレストラン」の名称は、宮沢賢治の童話集『注文の多い料理店』の序にある、「わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまひ、あなたのすきとほつたほんたうのたべものになることを、どんなにねがふかわかりません」に因んで付けたものである。

おはなしレストランライブラリーに並ぶ絵本たちが、利用者のすきとおったほんとうのたべものとなり、心からのほんとうの交流を育ててくれることを願っている。

		おはなしレストラン		
		おはなしレストラン		大学生におすすめの絵本30
1	赤ずきん	大竹茂夫訳 天沼春樹訳	パロル舎	これが赤ずきん! ?とにかく絵がきもち。一度見たら忘れられません。絵本の世界ってこんなに自在で多彩。
2	あさの絵本	谷川俊太郎文 吉村和敏写真	アリス館	湖の畔で海で山で、朝の景色のオンパレード。「だれよりもはやく/めをさますのは/そら/おはよう!
3	あたまにつまった石ころが	キャロル・オーティス・ハースト文 ジェイムズ・ステーパーソン絵 千葉茂樹訳	光村教育図書	石ころ集めが大好きだったキャロルのお父さん。頭の中はいつも石ころのことについて。その半生を描く。
4	アルド・わたしだけのひみつのももだち	ジョン・バーニンガム作 谷川俊太郎訳	ほるぷ出版	孤独な少女に寄り添う秘密の友達「アルド」。科学では割り切れない人間の心を作者はやさしく見守ります。
5	おいしそうなバレエ	ジェイムズ・マーシャル文 モーリス・センダック絵 さくまゆみこ訳	徳間書店	「白ブタの湖」を観劇したオオカミはどうう舞台上に飛び出して…。センダックの絵も遊び満載の愉快なおはなし。
6	OLIVIA	イアン・ファルコナー作 谷川俊太郎訳	あすなろ書房	好奇心旺盛で天真爛漫な子豚のオリビア。絵の可愛さ、そしてお母さんの見守り具合が最高です。
7	かさをささないシランさん	谷川俊太郎、アムネスティ・インターナショナル作 いせひでこ絵	理論社	罪なく囚われている人々のために活動する人権団体アムネスティを描いた絵本。単なる紹介を超えて心に届く。
8	悲しい本	マイケル・ローゼン作 クエンティン・ブレイク絵 谷川俊太郎訳	あかね書房	最愛の息子を失い、ボロボロになった男を描く。大学生にも、この父親の悲しみは十分伝わると思います。
9	ガンピーさんのふなあそび	ジョン・バーニンガム作 光吉夏弥訳	ほるぷ出版	ガンピーさんが小舟で出かけ、動物達が次々乗り込んで…。ここに流れている“時間”が好きです。
10	こうえんで…4つのお話	アンソニー・ブラウン作 久山太市訳	評論社	公園での一つの出来事を、登場する4人の視点でそれぞれ描く。機知に富んだ絵と内容で読むたび発見あり。
11	子どもたちの遺言	谷川俊太郎詩 田淵章三写真	佼成出版社	誕生の瞬間から成人式を迎えるまで、12のシーンの写真と詩で綴る。「きみと」「ありがとう」は、大学生にぴったり。
12	スズの兵隊	アンデルセン文 マーシャ・ブラウン絵 光吉夏弥訳	岩波書店	スズで出来たおもちゃの兵隊。その中に一つだけ1本足の兵隊が。結末を大学生はどう受け止めるか。
13	たかこ	清水真裕文 青山友美絵	童心社	ぼくのクラスに転校してきた「たかこ」。扇を持ち、筆を使い、琵琶を鳴らし、「いとほづかし」だった。
14	なにをたべたかわかる?	長 新太作	絵本館	え?なに?うわ! まじ! いったい誰が何を食べたのでしょうか。長さんのシュールな世界をご堪能ください。
15	なめとこ山の熊	宮沢賢治作 中村道雄絵	借成社	賢治の童話はいろいろな形で絵本になっていますが、これはなんと組み木細工で絵が出来上がっています。
16	にいさん	いせ ひでこ作	借成社	1990年以来、画家ゴッホの足跡をたどる旅を続けてきた作者が描く、ゴッホと弟テオの魂の交感の物語。
17	パイロドライバー	長谷川集平作	ブッキング	解説不能。とにかく絵本を開いてみてください。あなたの頭にパイロドライバーが炸裂します。
18	はたらくまのハンバートとロンドン市長さんのおはなし	ジョン・バーニンガム作 神宮輝夫訳	童話館出版	くず鉄集めの馬をめぐる、ちょっといかした話。バーニンガムの絵も内容にマッチして、読後幸せな気分。
19	はるにれ	姉崎一馬写真	福音館書店	高台に立つ1本のハルニレの木を、春夏秋冬撮り続けました。同じ木にもこんなにたくさん表情が。
20	ハルばあちゃんの手	山中恒文 木下晋絵	福音館書店	一人の女の子が生まれ成長し、やがて恋をして結婚し、子どもを産み育て、年老いて。主役はその折々の「手」。
21	パンやのくまさん	フィービとセルビ・ウォーグトン作 まさきるりこ訳	福音館書店	この絵本では、物語らしい物語はなにも起こりません。なんでもない日常がかくもあたたかく尊いとは。
22	漂流物	デイヴィッド・ウィーズナー作	BL出版	少年は海岸である漂流物を拾う。圧倒的な描写力を誇る作者が絵だけで繰り広げる摩訶不思議の世界。
23	ピロードのうさぎ	マージェリイ・W・ピアンコ原作 酒井駒子絵・抄訳	ブロンズ新社	ピアンコの名作に酒井さんの絵の質感がピタッと合まって、いい映画を見た時のような深い感動を覚えます。
24	ぶたにく	大西暢夫 写真・文	幻冬社	鹿児島市ゆかり学園。知的障害のある人たちが心をこめて育てた豚。その誕生からソーセージになるまで。
25	ふたりはともだち	アーノルド・ローベル作 三木卓訳	文化出版局	かえるくんとがまぐんの、ちょっと間抜けな、それでいてあたたかい、愛情あふれる友情物語。
26	まぐらのせんにんーそのあなたの巻ー	かがくいひろし	佼成出版社	今や大人気のかがかい絵本。その特徴がよく表れた1冊。力の抜け加減がいいですね。
27	魔法のホウキ	オールズ・バーグ絵・文 村上春樹訳	河出書房新社	魔女が落ちていった魔法のホウキ。オールズバーグの精緻で不思議な単色の絵で読者も魔法に。
28	満月を待って	メアリー・リン・レイ文 バーバラ・クーニー絵 掛川恭子訳	あすなろ書房	アメリカ、ハドソンから入った山中で、籠を作って暮らしていた人々の話。静かに心に染み入る名作です。
29	みみをすます	谷川俊太郎詩 長新太絵	響文社	「みみをすます/きのうの/あまだれに/みみをすます」ひらがな長編詩。英訳、谷川さんの朗読CD付き。
30	ルリユールおじさん	いせ ひでこ作	理論社	パリの路地裏。そこには手作業で製本を営む老人がいた。受け継がれる職人の技と情熱を淡い水彩で描く。

注

(1) 大分大学の児童図書室については、開設の時期について問い合わせたところ定かでないとのことだった。

(2) おはなしレストランの教育活動については、以下の拙稿を参照されたい。

マユアキ・岩田英作 (2007) 「学びの仕掛けとしての『読み聞かせの実践』—小児科病棟におけるボランティア活動からのはじまり—」 島根女子短期大学紀要

マユアキ・岩田英作 (2009) 「読み聞かせ活動を通じた〈交流力〉の育成」 島根県立大学短期大学部松江キャンパス

岩田英作 (2012) 「おはなしレストランの取組—読み聞かせによる人間力の育成—」 国語教育論叢

(3) たとえば、「平成 24 年度第 98 回全国図書館大会島根大会」(2012. 年 10 月 25 日、26 日) 第 2 分

科会「大学・短大・高専図書館」の案内には、「日本の高等教育機関の図書館は、伝統的に教育との連携が弱く、図書館が学内の教育プログラムと連動しながら学習や教育支援を効果的に行ってきたとは言い難い現状があります。」とある。

(4) 他に健康栄養学科の学生も読み聞かせの授業を履修できるが、これまでに健康栄養学科で履修した学生はわずかに 1 名である。

(5) 岩田英作・マユアキ (2012) 「平成 21 年度文部科学省選定大学教育推進プログラム『おはなしレストラン、はじまるよ! ~読み聞かせによる人間力の育成~』事業成果報告書」所収

(6) 島根県高等学校文化連盟文学専門部主催県大会講演 (2011 年 12 月 16 日、島根県立松江南高等学校)

(いわた えいさく 島根県立大学短期大学部教授)